

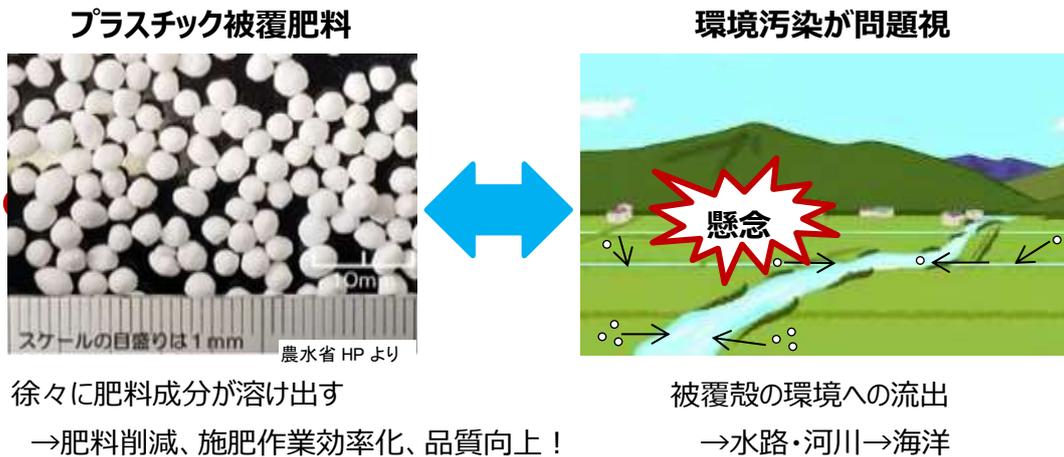
プラスチック被覆の肥料に頼らない施肥技術の開発

- 実施期間：令和5～9年度
- 担当部署：土壌化学部、作物部
- 区分：プロジェクト（みどり戦略プロジェクト）

○研究内容

プラスチック被覆した肥効調節型肥料は、施肥量や施肥回数を減らすことができ、効果的に利用することで品質向上にもつながるため、水稻や麦作で広く利用されていますが、プラスチック被覆殻が海洋へ流出するなど環境への影響が懸念されています。こうした中、肥料業界団体においては、将来的にプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業への転換を目指す方針としています。

そこで、プラスチック被膜を用いない緩効性肥料の機能や特性を評価するとともに、水稻作や麦作での利用方法を明らかにします。



代替技術の開発が必要

① 代替緩効性肥料の特性の把握

- 微生物分解性肥料
- 硫黄被覆肥料
- 崩壊性プラスチック被覆肥料

② 水稻・麦での利用法確立

